

小・中一貫カリキュラム(情報教育) 平成29年3月末現在

中学校ブロックのめざす子ども像	○未来を見つめ、自ら学び共に生きる子 ○人や社会とよりよく関わるができる子 ○自分の思いを伝えられる子(コミュニケーション力の育成)
-----------------	--

系統・項目/発達段階	小学校1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	中学校1年生	2年生	3年生		
	Ⅰ期(1~5年)基礎基本の徹底					Ⅱ期(6・7年生)連続性を意識した指導		Ⅲ期(8・9年生)進路を見据えた指導			
めざす子どもの姿	情報手段に慣れ親しみ基本的な操作や情報モラルを身に付け、適切に活用できる子						情報モラルを身に付け、情報手段を適切かつ主体的、積極的に活用できる子				
情報活用の実践力A (3)受け手の状況などを踏まえた発信・伝達	評価基準	1 伝える相手を意識して、自分の考えや気持ちを文書や手紙で伝えることができる						1 メールやアドレス帳、ファイル添付など電子メールの機能を効果的に活用する方法を知り、経験する			
	学習活動						【外】インターネットの情報を収集したり海外の人とメールで交流したりする(教P18~21)	【外】電子メールやテレビ会議システム等を活用した海外との交流(教1年P104~105)	【外】電子メールやテレビ会議システム等を活用した海外との交流(教2年P106~107)	【数】遠隔地の生徒間の伝え合い(教P204~220)	
	評価基準	2 インターネットを介して自分の考えや気持ちを誤解のない表現で伝えることができる						2 電子メールや掲示板、動画通信などを用いて、自分の考えや気持ちを正確に伝えたり、相手の気持ちを読み取ったりしてコミュニケーションができる			
	学習活動						【社】Webページやメールによる情報発信の学習	【社】情報発信による学習	【社】情報発信による学習	【社】情報発信による学習	
	学習活動						【外】インターネットの情報を収集したり海外の人とメールで交流したりする(教P38~40)	【外】電子メールやテレビ会議システム等を活用した海外との交流(教1年P104~105)	【外】電子メールやテレビ会議システム等を活用した海外との交流(教2年P106~107)	【数】遠隔地の生徒間の伝え合い(教P204~220)	
	評価基準	3 調べたことをWebページにまとめたり、相手にわかりやすくプレゼンテーション(発表)したりできる						3 文字の大きさや色遣い、画像の配置などレイアウトを工夫してわかりやすいWebページ、プレゼンテーション資料、アニメーションなどを作成し、自分の考えを発信できる			
	学習活動						【理】学習したことをプレゼンテーションで発表や説明し合う(教P17, P45, P101, P129)	【理】学習したことをプレゼンテーションで発表や説明し合う(教P65)	【理】学習したことをプレゼンテーションで発表や説明し合う(教P73)	【国】自分の考えをまとめる活動 【国】プレゼンテーション(教P42)	
	学習活動	【生】自分たちの通学路の安全について調べる(教上P8~9)	【生】自分たちの町にはどのような施設や人がいるのか探検する(教下P22~51) 【生】学習したことや成長したことを保護者や異学年の人と交流する(教下P86~95)							【美】造形や美術の働きについてのプレゼンテーション(教2・3P64~69)	
	学習活動									【技】メディアを複合したデジタル作品の制作(教P218~223, 226~231)	
	学習活動						【総】世界遺産についてまとめプレゼンテーションソフトを使って発表する 【総】日本の食についてまとめプレゼンテーションソフトを使って発表する			【国】「追究」調べ学習P.P.を用いたプレゼンテーション	
評価基準	4 課題や目的に応じて、小学校で学んだ情報手段を適切に活用して発信(発表)内容の評価や改善ができる						4 課題や目的に応じて、中学校で学んだ情報手段を適切に活用して発信(発表)内容の評価や改善ができる				
学習活動						【理】学習したことをプレゼンテーションで発表や説明し合う(教P17, P45, P101, P129)	【理】学習したことをプレゼンテーションで発表や説明し合う(教P65)	【理】学習したことをプレゼンテーションで発表や説明し合う(教P73)	【技】完成した作品の評価と改善(教P225, 226~231)		

小・中一貫カリキュラム(情報教育) 平成29年3月末現在

中学校ブロックのめざす子ども像	○未来を見つめ、自ら学び共に生きる子 ○人や社会とよりよく関わることができる子 ○自分の思いを伝えられる子(コミュニケーション力の育成)
-----------------	--

系統・項目/発達段階	小学校1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	中学校1年生	2年生	3年生		
	I期(1~5年)基礎基本の徹底					II期(6・7年生)連続性を意識した指導		III期(8・9年生)進路を見据えた指導			
めざす子どもの姿	情報手段に慣れ親しみ基本的な操作や情報モラルを身に付け、適切に活用できる子						情報モラルを身に付け、情報手段を適切かつ主体的、積極的に活用できる子				
(1) 情報活用 の基礎となる 情報手段の 特性の理解	評価基準	1 情報手段を利用して、情報を集めたりまとめる方法と、その特性を知る					1 コンピュータの構成と基本的な情報処理の仕組みを理解できる				
	学習活動			【社】県内の特色ある地域に関してインターネットで資料を収集する(教上P30~31)	【社】県内の特色ある地域に関してインターネットで資料を収集する(教上P20~36)				【技】基本的な情報処理の仕組みやデジタル化の方法(教P196~199) 【技】情報の処理の単位(教P201)		
	評価基準	2 電子メールやWebページなどの情報手段を利用して、情報を伝える方法と、その特性を知る					2 情報通信ネットワークにおける基本的な情報利用の仕組みを理解できる				
	学習活動			【社】インターネットのWeb検索で情報を集める(教上P108~P109)	【社】インターネットのWeb検索で情報を集める(教上P110~P131)	【社】インターネットのWeb検索で情報を集める(教上P24~P25) 【社】インターネットのWeb検索で情報を集める(教下P40~P59)			【技】情報通信ネットワークの構成(教P202~209)		
	評価基準	3 電子メールや掲示板などの情報手段を利用して、情報を交流する方法と、その特性を知る					3 デジタル化の方法について知り、その特性や利点を理解できる				
	学習活動								【技】基本的な情報処理の仕組みやデジタル化の方法(教P196~199)		
	評価基準						4 コンピュータを利用した計測・制御の基本的な仕組みを知ることができる				
	学習活動								11. 【技】計測・制御システムの理解(教P236~237)		
	(2) 情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解	評価基準	1 自分の活動や学習の成果をデジタル情報に記録し、評価できる					1 メディアの特徴と利用方法を知り、制作品の設計に活かすことができる			
		学習活動							【美】映像メディアの複合(教1年P44~45)		【技】メディアを複合したデジタル作品の制作(教P218~223, 226~231)
		評価基準	2 情報の信憑性を確かめる方法を知り、課題解決に利用できる					2 信憑性を確かめる方法を知り、いくつかの方法で自分の扱う情報の信憑性を確かめることができる			
		学習活動							【数】情報の信頼性(教P238~239)		
評価基準		3 収集した情報を比較したり、分類したり、関連付けたりして情報の整理を行う方法を知る					3 情報処理の手順を考え、簡単なプログラムが作成できる				
学習活動									【技】情報処理の手順の理解とプログラムの作成(教P238~249)		
評価基準						4 情報を伝えるメディアの特性や、発信者から受信者までの情報伝達の過程を理解し、それを元に情報の真偽や質を吟味できる					
学習活動							【国】プレゼンテーション(教P42)		【社】情報の検索	【社】情報の検索	【社】情報の検索
								【技】完成した作品の評価と改善(教P225, 226~231)			

小・中一貫カリキュラム(情報教育) 平成29年3月末現在

中学校ブロックのめざす子ども像	○未来を見つめ、自ら学び共に生きる子 ○人や社会とよりよく関わるができる子 ○自分の思いを伝えられる子(コミュニケーション力の育成)
-----------------	--

系統・項目/発達段階	小学校1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	中学校1年生	2年生	3年生	
	Ⅰ期(1~5年)基礎基本の徹底					Ⅱ期(6・7年生)連続性を意識した指導		Ⅲ期(8・9年生)進路を見据えた指導		
めざす子どもの姿	情報手段に慣れ親しみ基本的な操作や情報モラルを身に付け、適切に活用できる子						情報モラルを身に付け、情報手段を適切かつ主体的、積極的に活用できる子			
(一) 社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響の理解	評価基準	1 情報が社会に与える影響力や情報技術が社会の中で果たしている役割を理解できる					1 報道される事件や事故から情報や情報手段、情報技術が社会に及ぼしている影響について理解できる			
	学習活動					【社】情報化が社会にもたらす大きな影響について理解する(教下P12~19) 【社】身の回りや産業の分野にも情報化が進展していることを理解する(教下P22~26)				【技】情報技術の社会的影響力と評価(教P234~235)
	評価基準	2 情報を伝える産業としてマスメディアの使命や役割を理解できる					2 情報に関する技術が多くの産業を支えるとともに、社会生活や家庭生活を変化させてきたことを理解できる			
	学習活動					【社】情報産業に従事している人や情報産業の役割を理解する(教下P2~11)				
	評価基準	3 自分たちの身の回りにも情報通信技術が活用されていることを知り、生活に役立っていることを理解できる					3 日常的な生活において情報や情報機器がどのような役割を果たしているか、事例をもとに理解できる			
	学習活動					【社】身の回りや産業の分野にも情報化が進展していることを理解する(教下P22~26)				【技】情報技術の社会的影響力と評価(教P234~235)
	評価基準						4 不正アクセスや迷惑行為の実態を知り、ウイルス対策や暗号化など基本的なセキュリティ対策の必要性を理解できる			
	学習活動									【技】情報通信ネットワークの構成(教P202~209)
	評価基準	1 相手を思いやるコミュニケーションができる					1 受け手の気持ちや考えを尊重してコミュニケーションができる			
	学習活動					【道】文字によるコミュニケーションは誤解を生む危険があることに気づく(教P187)				【道】文字によるコミュニケーションは誤解を生む危険があることに気づく(教P78~81, 226~229)
	評価基準	2 責任ある情報発信ができる					2 情報発信に責任を持ち、適正な情報が発信できる			
	学習活動									【社】情報化の進展による生活の向上(教P10~11) 【技】著作権や知的財産の保護(教P215)
評価基準	3 ネットワークや情報機器を使う際のルールやマナーを守ることができる					3 情報通信ネットワーク利用上の基本的なルールや法律を遵守し、著作権や知的財産権を尊重できる				
学習活動					【国】出典や引用の適切な方法(教下P149~153) 【社】身の回りや産業の分野にも情報化が進展していることを理解する(教下P22~26)				【道】ネットの匿名性を悪用して悪口を書き込むことの重大さに気づく(教P78~81, 226~229) 【道】相手の顔が見えないメールでのコミュニケーションの特性を知る(教P28~31, 78~81, P226~229)	
評価基準						【音】知的財産権の保護(教2・3下P44~45) 【美】知的所有権の保護				
学習活動					【道】知的財産権を尊重することの大切さに気づく(教P170)	【道】知的財産権を尊重することの大切さに気づく(教P187)			【技】ルールやマナーの遵守(教P210~215) 【技】著作権や知的財産の保護(教P215)	
評価基準	4 インターネットには不適切な情報や有害な情報があることを知り、安全で正しい対処ができる					4 安全性の面から情報社会の特性を理解し、危険を回避するとともに、万一問題に遭遇した場合にも、主体的に解決を図る方法を知る				
学習活動					【道】知的財産権を尊重することの大切さに気づく(教P170)	【道】知的財産権を尊重することの大切さに気づく(教P187)			【技】ルールやマナーの遵守(教P210~215) 【道】個人情報保護することの大切さに気づく(教P226~229)	
学習活動					【道】知的財産権を尊重することの大切さに気づく(教P170)	【道】知的財産権を尊重することの大切さに気づく(教P187)			【道】個人情報保護することの大切さに気づく(教P226~229)	
評価基準	5 個人情報やID・パスワードの大切さに気づき、守ることができる					5 自他の個人情報の重要性を知り、個人情報を守るために正しく対処できる				
学習活動					【道】知的財産権を尊重することの大切さに気づく(教P170)	【道】知的財産権を尊重することの大切さに気づく(教P187)			【技】情報通信ネットワークの構成 【技】個人情報の保護(教P224)	

小・中一貫カリキュラム(情報教育) 平成29年3月末現在

中学校ブロックの めざす子ども像	○未来を見つめ、自ら学び共に生きる子 ○人や社会とよりよく関わるができる子 ○自分の思いを伝えられる子(コミュニケーション力の育成)
---------------------	--

系統・項目/発達段階		小学校1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	中学校1年生	2年生	3年生	
I期(1~5年)基礎基本の徹底							II期(6・7年生)連続性を意識した指導		III期(8・9年生)進路を見据えた指導		
めざす子どもの姿		情報手段に慣れ親しみ基本的な操作や情報モラルを身に付け、適切に活用できる子							情報モラルを身に付け、情報手段を適切かつ主体的、積極的に活用できる子		
情報社会に参画する態度C (3)望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度	活動			【道】個人情報を保護することの大切さに気づく(教P172)			【道】個人情報を保護することの大切さに気づく(教P186)				
	評価基準	6 健康に配慮して情報機器を使うことができる							6 情報機器の使用による健康とのかかわりについて考え、情報機器の利用時間や頻度を自己管理できる		
	学習活動								【保体】情報機器の長時間使用(保健教P125) 【保体】健康を害する有害情報(保健教P94~109)	【保体】情報機器の長時間使用(保健教P125) 【保体】健康を害する有害情報(保健教P94~109)	
									【技】情報機器使用に関する健康への配慮		
	評価基準	1 協力し合ってネットワークを使うことができる							1 情報を活用することの意義を理解し、積極的に情報共有をはかることができる		
	学習活動										
	評価基準	2 情報を発信する側に求められる役割や責任の大きさ、情報を受け取る側の正しい判断の必要性について考えることができる							2 メディアから収集した情報には発信者の意図や背景があることを知り、批判的にとらえることができる		
	学習活動								【国】プレゼンテーション(教P42)		
									【社】マスメディアの働きや国民生活への影響(教P82~83)		
	評価基準								3 情報に関する技術を適切に評価し、活用する能力と態度を身に付けることができる		
学習活動								【技】情報技術の社会的影響力と評価(教P234~235)			

※小学校の外国語活動の「教」とは、「Hi, Friends!」を表しています。小・中学校の道徳の「教」とは、「私たちの道徳」を表しています。